

外科 外科一般科
花柳科
婦人科 産科
婦人科
内科 × 光線科
平町字田町
(電話四七五番)

スター好
ナフトール着尺
新柄
モス着尺
新柄
ホグシ銘仙
其外色々取揃申候
平町 (電話五七番)
龜田屋

田中智學先生新著
一名國體讀本
日本とは
如何なる國ぞ
思想國難に對する大文字
一口五部以上は特に御相談
します
|| 定價金八十錢 ||
平町公園前
忠角佐々木商店
電話二三三番



定一部金貳錢 廣五號十二
一ヶ月五錢 告字詰一行
郵税五厘 料五十錢 日刊
日曜大祭 福島磐石城平町長崎町三五
發售所 常盤毎日新聞社
電話六三〇番

刊一 發行兼編輯人 川崎文治
本社下町番地 (電話六三〇番)
印刷所 常盤毎日印刷所

ライト寫真館
業務擴張の爲め左記の場所に移轉し
理想の寫場が
完成いたしました
引續き御愛顧を願上ます
平町搔進小路
魁文堂東隣り
ライト寫真館
電話八四七番

セメント
壁用材料
コールタール
ペンキ塗料
板ガラス
磐城セメント株式會社
代理店 **西村屋藥舖**
平町二丁目(電三)

耳鼻咽喉科専門
場所 (舊診療所裏通り)
合津醫院
平町仲田町(電話五五九)

切斷の苦しみなく...
ゆびはれ、やけど、淋病
梅毒、さりきす、乳はれ
くさ、ほうまつす
其他化膿するもの一切
靈藥ムテキ
發賣元 **阿康藥店**
縣社下古鍛冶町(電話四四番)

平町
吉田眼科醫院

刊夕日六十月一

家座講座
子供の生活と
清新なる娛樂 (二)
仙台放送局の講演速記
川崎小鳥講述

救護隊の人々は土塗れに
なつた赤ん坊を抱き合へな
がら驚きの眼を見張らねば
ならなかつたのです、夫れ
も其の筈、母親は兩方の手
をウソと地面に突ツ張つた
儘身を支へ、自分は死んで
もよい、せめて自分の愛兒
だけは、どうにかして助け
たい一心に燃え、雨の様に

◇行興別特恩謝末歲舊◇
當る十七日より公開
プロケラム
日活獨特悲喜劇
原作... 木村惠吾 監督... 伊奈精一
主演... 小杉勇 澤蘭子
大川端夜話
芝で生れて神田で育つ魚屋正吉の花
柳夜話
大日活代表傑作 寶玉篇
總指揮... 池水浩久 監督... 池田富保
山本嘉一 河部五郎 尾上多見太郎
外幹部出演
新作 **水戸黃門** 全廿卷
大衆映畫の製作に貢献する所ありし弊
社十有餘年の歴史は、本篇が映畫界に
君臨する太陽篇たることを保證す
規模壯大、諸設備全くなれる新大衆撮
影所の現代科學の極致を以て製作に當
たれる空前の大雄篇
吉例に依り 金十錢 平館

新築移轉
耳鼻咽喉科専門
氣管食道科
平町南町(舊診療所向)電話一七〇番
大和田醫院

愚息正儀本日葬送の際に遠路
の處態々御會葬被下殊に御香
奠を辱ふし難有御厚禮申上候
實は早速拜趨御禮可申之處混
雜中に付乍略儀以紙上御禮申
上候
昭和四年一月十六日
酒井國三郎

降りしる火の粉から自分
の愛兒を免れせしめ様と、
その身を其處に投げ出し、
命を献げて、その赤ん坊を
守つて居たのであらう事は
母親の背の中にも無慘に
焼けた、居る事に依つ
て肯けたのでした。「女は
弱し、されど母親は強し」
と誰れか云はれた言葉は
此一事が雄辯に物語つて餘
りあるものと信じます。
子實、子實、世の中に子
に優る實はない、よく古く
より申しますが如く、焼野
のさす夜の鶴子を思は
ぬ親はない筈であります。
されば、あなたの命を献げ
てもと、愛さるる子供達が



坪當り四圓で 異論なしに手打

平第四小學校の敷地

平町では明年度に堂根町ならびに小太郎町に建設する第四小學校の建設について明年度豫算に建築資金の一部を計上しこれによつて調査ならびに一部の買収等を行ふことに決定したので同建設委員は過般より地主と面接して買収準備交渉を開始したが買収豫定価格は大体坪當り四圓見當で一反歩千二百圓としてゐるが地主側は大した異論なしに買収に應ずるものと豫想される

四月まで……

出炭制限延長か

近く七大炭礦長が

會議を開いて協議する

一部賣炭業者から兎角の非難を受けながらも相當の成績を納めてゐた常磐地方七炭礦の出炭送炭制限協定はいよいよ本月末なつたのでこれにつき七大炭礦長會議を近く開催することとなつた昨年八月同制限協定以來常磐地方各炭礦の貯炭は著しく激減し當時全部で三十萬噸からあつたものが現在では七八萬噸しかなくなり、經營者もホク／＼し出送制限の利目に今更驚いてゐるが然し某礦主は制限が却て禍をなし自滅するが如き立場を

解除され

なつたのでこれにつき七大炭礦長會議を近く開催することとなつた昨年八月同制限協定以來常磐地方各炭礦の貯炭は著しく激減し當時全部で三十萬噸からあつたものが現在では七八萬噸しかなくなり、經營者もホク／＼し出送制限の利目に今更驚いてゐるが然し某礦主は制限が却て禍をなし自滅するが如き立場を

なつたのでこれにつき七大炭礦長會議を近く開催することとなつた昨年八月同制限協定以來常磐地方各炭礦の貯炭は著しく激減し當時全部で三十萬噸からあつたものが現在では七八萬噸しかなくなり、經營者もホク／＼し出送制限の利目に今更驚いてゐるが然し某礦主は制限が却て禍をなし自滅するが如き立場を

なつたのでこれにつき七大炭礦長會議を近く開催することとなつた昨年八月同制限協定以來常磐地方各炭礦の貯炭は著しく激減し當時全部で三十萬噸からあつたものが現在では七八萬噸しかなくなり、經營者もホク／＼し出送制限の利目に今更驚いてゐるが然し某礦主は制限が却て禍をなし自滅するが如き立場を

に年齢七十歳前後の老人の死體あるを十五日午前十時發見植田署で検視したがこのものとも判明せず附近

拂下米の移入で

米價が下向した

大浦倉庫の共販不成績

石城郡大浦村農業倉庫では郡農會の後援の下に第二回共同販賣を十五日午前十時から行つたが第一回の販賣は四等米一俵十圓八十錢といふ豫想外の高値で醸造家に取引されたため第二回も産米出廻り薄から相當高値で取引されるものと豫想されてゐたところ取引は一俵二三十錢安であつたため縣當時者は呆然とした右につき某平穀檢所員は

風勢激しく

自動車唧筒出動

平地方は本日夜明方より烈風吹き初め益々風勢激しさを加ふる爲め平消防組にて自動車唧筒出動町内を巡回し火防を奮勵した

ピンポン試合

盛んな

最近平地方に於けるピンポン熱は非常なもので各學校官衙、銀行會社等に於て夫々執務の餘暇を割き練習に興を沸かし一面体育獎勵の上に頗る好結果を擧げて居るが近く開催される試合大會として一月廿日午後一時

武田課長赴任

既報

東部電力郡山支社營業課長に榮轉した武田精一氏は本日午前九時廿五分平驛發平郡線にて赴任の途に着いたが驛頭には見送人多數にて頗る賑つた

弓道競射會

香月會が優勝

石城弓道聯合會第二回競射會は十三日級驛前射場において調催前回の優勝組たる香風會より優勝旗を返還し直に競射に移り各射手秘術妙技をつくして奮戦午後三時終了したが勿来町香風會第一位を占め再び優勝旗を獲得した成績次ぎの如し

武田課長赴任

既報

東部電力郡山支社營業課長に榮轉した武田精一氏は本日午前九時廿五分平驛發平郡線にて赴任の途に着いたが驛頭には見送人多數にて頗る賑つた

弓道競射會

香月會が優勝

石城弓道聯合會第二回競射會は十三日級驛前射場において調催前回の優勝組たる香風會より優勝旗を返還し直に競射に移り各射手秘術妙技をつくして奮戦午後三時終了したが勿来町香風會第一位を占め再び優勝旗を獲得した成績次ぎの如し

蛇塚

石城郡に於て 地方人に今尚 蛇塚は、郡大 野村大字戸田 字筆作の東端

細く長く徳川幕府の巧妙な政策で同藩に属されてゐた(四倉海岸舟付場は幕領)笠間藩で領内中神谷村(今の神谷小學校の在る所)に陣屋を置き(前村長壽男氏の居宅等は當時の屋敷地である)一切の領務を

山間に於て往々大蛇に脅かされるものさへあつた當時戸田村の百姓で銃術を能くする孫兵衛なるものが官林守護を命ぜられて山嶽を好んでゐた

巨蛇は悶々苦しむ四邊に風を起し砂をまき怒りの形相物凄かつたが、孫兵衛は屈せず獵刀を抜いて蛇の頭を断ち、藤蔓を以てこれを縛り、腕いて家に歸り庭上に其頭をさらして長く自家に秘藏してゐたが、其後に至り孫兵衛の孫が鬼越山で變死せるを初め、引續いて家人が疫病に罹り連、月八日毎に死するもの三人に及び安政五年家はまた火災にあつて秘藏せる蛇の頭骨も終つて灰燼に歸した外兎角災厄多く家産年に落ちて衣食にも困る家となつた

村人は皆これを大蛇の祟りとなし後同山に點々と残る死蛇の脊骨を拾つて埋めたのが蛇塚であり其際れた場所——笠松の名をとつて神社に祠られたものと傳へられてゐるが、郷人は今でも同山に於て蛇に遭ふことを厭ひ、見てもこれを殺傷するを好まざる様に習慣づけられてゐる

好間の火事

爐の不始末

石城郡好間村字北好間伊藤幸太郎方から十五日午前三時ころ發火同家を全焼同三十分鎮火した損害三百餘圓原因は爐の不始末



主婦の常識

寒もりの貯へ方 正月に残つた餅や寒餅は水につけて置きますと何時までもやはらかくて搗き立てのやうですが水を度々取替ない

餅がくさくさになります。お寒い折度々水を取替ますことは面倒でありますから、最初水五六合につき葛一合の割合に入れて沸騰させ湯が充分冷えたところへ餅を入れておくとい何時までおいても臭くなりません、もし水になまがはができましたら杓子ですくひとつておき

青なのゆで方 た菜類をゆでるとき水から入れた鍋の蓋をしたりすると色が悪くなります、よく煮わ立つてゐる湯の中に入れ箸で上下へ引繰返してのち蓋をしないでゆでゆだつたら水にとつて手早く二三度水を取替て一時に冷します

で四倉町に曳 鬼越山の山腹にある同所に笠松神社と稱する石の小祠があつて同山をゆきかふ村人は必ず頭を下げて過ぎてゐるが由来はこうである、今から二百餘年前の享保年間其頃の同地は茨城縣笠間藩の飛領で戸田村外現在の犬野村内に於ける八ヶ村並に四倉海岸に接する同地から西部山間地の上三坂に至る東西八里餘三十七ヶ村の三方面を

細く長く徳川幕府の巧妙な政策で同藩に属されてゐた(四倉海岸舟付場は幕領)笠間藩で領内中神谷村(今の神谷小學校の在る所)に陣屋を置き(前村長壽男氏の居宅等は當時の屋敷地である)一切の領務を

山間に於て往々大蛇に脅かされるものさへあつた當時戸田村の百姓で銃術を能くする孫兵衛なるものが官林守護を命ぜられて山嶽を好んでゐた

巨蛇は悶々苦しむ四邊に風を起し砂をまき怒りの形相物凄かつたが、孫兵衛は屈せず獵刀を抜いて蛇の頭を断ち、藤蔓を以てこれを縛り、腕いて家に歸り庭上に其頭をさらして長く自家に秘藏してゐたが、其後に至り孫兵衛の孫が鬼越山で變死せるを初め、引續いて家人が疫病に罹り連、月八日毎に死するもの三人に及び安政五年家はまた火災にあつて秘藏せる蛇の頭骨も終つて灰燼に歸した外兎角災厄多く家産年に落ちて衣食にも困る家となつた

村人は皆これを大蛇の祟りとなし後同山に點々と残る死蛇の脊骨を拾つて埋めたのが蛇塚であり其際れた場所——笠松の名をとつて神社に祠られたものと傳へられてゐるが、郷人は今でも同山に於て蛇に遭ふことを厭ひ、見てもこれを殺傷するを好まざる様に習慣づけられてゐる